



102

# 「黄色いバナナ」

「今回の『侵攻』が認められないのは明々白々。それは大前提。その上で我々は脊髄反射で熱い立つのでなく、ウクライナ、ベラルーシ、ロシアの東スラヴ地域で

の『戦争』状態を早期に終結させ、同じスラヴ系であるが故にロシアを「近親憎悪」的に敵視しがちな他の隣接国との関係も調整すべき」。都合33年に及ぶ浅田彰氏と

★次号10月号の発行日は4月23日曜日。

の「憂国呆談」最新回での発言。

シンガポール国立大学アジア研究所キシヨール・マンババニ名誉フェローも「Washington's Russia Policy Won't Work in Asia」論考の中でジョージ・ケ

ナンやヘンリー・キッシンジャーの「地政学的実践主義」を援用。「ウクライナのNATO加盟を無謀に主張し、西側諸国からの武器供与を加速させた面々はウクライナの地政学的な子羊を虐殺に導き、大規模な世界的不安定を生み出した道徳的責任を負うべき」と看破。

BRICKSのインド・中国・南アフリカ、親日国のモンゴル・ヴェトナム・ラオス、更にパキスタン・バングラデシュは3月2日、ロシア非難決議を棄権。24日2度目の決議にはブルネイも加わりASEAN加盟国3か国が棄権。2月25日の国連安保理では中国、インドと共にアラブ首長国連邦UAEも棄権しました。

「中国に対抗して米国による関与の強化を示す」と日本貿易振興機構HPが記す「インド太平洋戦略」をワシントンDCで発表後、「This Man Cannot Remain in Power」とウラジミール・プー

チン体制転換を高言して釈明に追われる「天候曇天ニシテ波高キ」ジョー・バイデン政権。

54基もの原子力発電所の維持管理すら儘ならぬにも拘らず、「核シェアリング」議論を米国と加速せよと熱る日本の従米・屈米派。核弾頭80機は有すれど、きな臭い中近東で標的となる蓋然性を踏まえ、原発は保有しないイスラエルの狡猾な安全保障の智慧。

ナフタリ・ベネット首相はロシア、ウクライナの仲介に乗り出し、トルコのレジェップ・エルドアン大統領も露ウ両国対面協議の場を4度も提供。他方、サウジアラビアとUAEに原油増産を求めて首脳電話会談を打診するも袖にされた米国。シリア難民と異なり、諸手を挙げて白色人種のウクライナ難民を受け入れるEU。

「今回の戦争で世界秩序の再編が起こり、米国の力が後退、中国の台頭が進む。故にロシアは米国と距離を置くインド、トルコ、イラン等の国々とのネットワークを強化すべく、SCO上海協力機構を最大限活用するであろう」。外務省欧州局長を務めた東郷和彦氏の述べと平仄が合います。

SCOには中露、印パ、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタンが加盟。イラン、モンゴル、トルコ、更にサウジアラビア、バーレーン、イスラエル等も参加申請。豈図らんや資源輸入国な筈の中国のエネルギ自給率は8割。穀物自給率は9割超です。露ウ合わせて世界市場で小麦の3割、大麦の3割、トウモロコシの2割、ヒマワリの75%を供給。「アングロサクソン民族のエリート正会員で在りたい強い願望を抱く日本国民。即ち欧米人への劣等感、亜細亜に於ける近代人は自分達のみで中国人、朝鮮人、露西亜人よりも優越している」と自負する両面価値観を巧妙に利用せよ。然すれば連中は我々白色人種に從属し、黄色人種のアジアで孤立する」。ドワイト・アイゼンハワー政権時代の国務長官で日米安全保障条約の産みの親として知られる反共の旗手ジョン・フォスター・ダレスの「妄言」です。

太平洋を挟んで向き合う米国と中国の「同時通訳国家」を目指すべきなのに、アメリカ一本足打法の非資源国ニッポン。嗚呼、「黄色いバナナ」の「名譽白人」よ。

述懐と平仄が合います。

述懐と平仄が合います。

述懐と平仄が合います。